

令和2年度 鳥取大学第1回経営協議会 議事要旨

日 時 令和2年6月12日(金) 13:30 ~ 15:10

会議方法 Google Meetによるオンライン会議

出席者 (学外) 江崎, 熊埜御堂, 平井, 林田, 松本, 宮崎, 吉岡,
渡辺の各委員

(学内) 中島, 田村, 河田, 細井, 松田, 藪田, 原田の各委員

陪席者 田中監事, 足立監事, 松浦副学長, 安延副学長, 山口副学長,
山根地域学部長, 黒沢医学部長, 霜村農学部長

新任事務陪席の紹介

学長より, 新任事務陪席の紹介があった。

議事要旨の承認

前回(令和2年3月23日開催, 令和元年度第5回)の議事要旨を承認した。

議 題

1. 平成31事業年度及び第3期中期目標期間(平成28~31事業年度)に係る業務実績報告書(案)

資料1に基づき, 平成31事業年度及び第3期中期目標期間(平成28~31事業年度)業務実績報告書について, 機能強化の重点支援(戦略性が高く, 意欲的な目標・計画)及び業務運営・財務内容の改善に関する特記事項等について説明があり, 審議の結果承認した。

2. 令和元年度決算

資料2に基づき, 令和元年度決算について, 貸借対照表及び損益計算書等により決算概要の説明があり, 審議の結果承認した。

報 告

1. 令和3年度概算要求

資料3に基づき, 令和3年度重点支援に係る概算要求の方向性について報告があった。

2. 令和元年度及び令和2年度補正予算

資料4に基づき, 令和元年度補正予算(翌事業年度繰越分)及び令和2年度補正予算の各事業概要等について報告があった。

3. 令和元年度資金運用実績

資料5に基づき、令和元年度資金運用実績について、受取利息が6,874千円となった旨報告があった。

4. 令和元年度就職状況等

資料6に基づき、令和元年度就職状況及び本学卒業生の県内定着状況について報告があった。

5. 令和2年度入試状況

資料7に基づき、令和2年度入試状況について報告があった。

6. 本学における新型コロナウイルス感染症対策

資料8に基づき、本学における新型コロナウイルス感染症対策について、これまでに開催した感染症タスク・フォースによる取組み、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針」の策定、及び経済的に困窮した学生に対する支援として前期授業料納付期限の延長並びに本学独自の「緊急給付型支援金」支給実施等の報告があった。

— 委員からの主な意見 —

- ◇ 鳥取県では4月18日以降新型コロナウイルス感染症の陽性患者は確認されておらず約2か月が経過することから、早急に大学の活動制限を緩和し、学生をキャンパスに迎え入れることを要望する意見があった。このことに対し、感染症対策を踏まえた収容規模に対応できる講義室数の不足、及びオンラインと対面形式を交互に実施した場合の学生への負担増加等の観点から時間割の調整が困難であり、授業期間途中での授業方法の変更は混乱を来す恐れがあること、また本学学生に行ったアンケートでは、学生全体の半数がオンライン授業でも良いと回答し、未だ1割の学生については対面授業に対して恐怖心がある一方で、1年生の7～8割が対面授業を希望しているとの結果が示されていること等の理由から、学生へのケアを行いつつ、第2クォーター（鳥取地区：6月25日、米子地区6月8日）より対面授業を開始することとしている旨、本学より説明があった。

- ◇ 1年生については、今が地域・大学への愛着形成の時期であることから、希望する学生に対しては対面の機会を設けることや学内への学生の入構制限の緩和を要望する旨の発言があった。
また、鳥取県としてもPCR検査の実施等、学生の不安解消のための取組みに協力したい旨の発言があった。

- ◇ 新型コロナウイルス感染症に対しては、現在あまりにも萎縮しすぎている面があり、メディアリテラシー教育として在宅での講義受講も一つの方法ではあるが、常にメディアを通してのコミュニケーションでは今後実生活でのコミュニケーションを取りづらくなる学生が増加することが危惧されるとの意見があった。あわせて、ソーシャルディスタンスを保ちつつ対面でコミュニケーションを行うことも教育の一環として必要であるため、早く学生がキャンパスでの生活に戻れるよう学生同士のコミュニケーションと感染予防とを両立させるための支援（マスク、消毒、日常生活の指導）を要望する旨の発言があった。

その他

- ◇ 資料8に基づき、最近の地域貢献の取組みについて説明があった。
- ◇ 資料9に基づき、令和2年度第2回目を9月23日開催予定である旨説明があった。